

## 町立津南病院研修感想文

十日町病院研修医 2 年 楠本 健太郎

2026年1月5日から30日まで、町立津南病院で地域医療実習をさせていただきました。雪の時期で、仕事終わりに車に高く積もった雪を見たときは「短時間でここまで、、、」と驚きましたが、消雪パイプのある道路も多く、除雪も丁寧で、車通勤は想像以上に困らずに行えました。私は十日町病院の研修医として日頃から津南病院のことは耳にはしていましたが、実際に訪れてみると病院は思った以上に立派で、地域の拠点としての存在感を強く感じました。

実習の中ではまず初めに苦戦したのは紙カルテです。普段は電子カルテ中心でペンを握る機会がここ数年ほとんどなかったので文字を書くこと自体が久しぶりでした。

自分の書いた文字が人に読まれると考えるとより丁寧に書こうという意識が強くなり、それに伴って診察もいつも以上に丁寧になったように感じました。一方、患者さんの過去情報の把握や方針確認に時間がかかり、効率面の課題も実感しました。効率化が進む時代にあっても、古き良き学びを残す紙カルテを経験できたことは非常に貴重でした。

訪問診療では100歳以上の方にも複数お会いし、ご本人・ご家族と病院との信頼関係が丁寧に築かれていることに感銘を受けました。

クアハウスでの水中運動にも参加し、全身を使う負荷の高い運動に自分も息が上がりました。参加者の中には25年以上通う90歳以上の方が3名もいらっしゃいました。

「この運動のおかげで元気です」「毎週が楽しみです」とおっしゃっており実際に元気に話され、歩かれている様子を見て、継続が健康を支える力を強く実感し、こうした取り組みは是非全国に広がってほしいなと感じました。

さらに地域の暖かさも印象的でした。紹介された飲食店でまた次の店を教わり、また次でも別の店を教わる、といったように毎回気持ち良く迎えていただきました。

津南病院で学んだ「医療は地域の暮らしの中にある」という視点を今後の診療や地域連携に生かし、患者さんの生活背景まで見据えた医療を実践していきたいと思います。